

主な内容

- 特集—— 医療と健康を地域へつなぐ
岩手医科大学市民公開講座
- トピックス—— 第1回全学研究交流会が行われました
募金状況報告
- フリーページー すこやかスポット歯学講座No.28
「患者さんの全身管理を行っている
歯科麻酔科医の役割」

表紙写真：ウエルかむ2025 デジタル歯科体験
「口腔内スキャナーによる光学印象」（関連記事P.5）

特集



医療と健康を地域へつなぐ 岩手医科大学市民公開講座

古くより愛された万葉植物だが、人妻ゆえに、我れ悲しむやも
現在は本学では市民の方々に向け毎夏、市民公開講座を開講
しており、今年で 43 回目を迎えました。
本号では、過去の記事や受講者からの感謝の言葉、運
営に携わる教員にお話を伺いましたのでご紹介します。

はじめに

岩手医科大学では、生涯にわたり知的な関心を持ち続け、学びを通じて人生を豊かにしたいと考える市民の方々のために、市民公開講座を開催しています。第1回は昭和54年8月に行われ、教養教育センター（当時は教養部）主導の下、毎年開催を続けてきました。コロナ禍で開催できない年もありましたが今年で43回を迎え、第1回は40名の定員でスタートしましたが現在は200名の定員が埋まるほど市民の方々に受講されます。各学部の教員がわかりやすい言葉で医療・健康・介護・予防など多岐にわたるテーマを解説し、地域に開かれた大学としての使命を果たしてきました。

令和7年度 第43回

今年、43回目を迎えた市民公開講座は「こころの健康を考える ー毎日を自分らしく生きるには」をテーマに7月30日（水）から8月1日（金）の3日間にわたり矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。全5講座が開講され、173名の方々が受講しました。

テーマ	講 師
こころの健康のアンチスティグマとリカバリーの考え方の重要性	医学部神経精神科学講座 教授 大塚 耕太郎
自分も相手も大切に ～アサーションで気持ちが繋がる	看護学部地域包括ケア講座 教授 遠藤 太
緩和ケアについて	医学部緩和医療学科 教授 木村 祐輔
こころとからだの健康をつなぐ口腔の力 - 人生 100 年時代を生きるための口腔管理 -	歯学部歯科補綴学講座有床義歯・ 口腔リハビリテーション学分野 教授 小林 琢也
心身の癒しとなる薬用植物	薬学部薬科学講座天然物化学分野 教授 田浦 太志



リーフレット



会場の様子

これまで岩手医科大学報では市民公開講座の様子を毎年掲載してきました。過去の様子を当時の紙面とともにご紹介します。

HISTORY

市民公開講座の歴史

第5回(昭和58年開催)

この年から写真とあわせて掲載。定員を50名に増員させ7日間にわたって実施。県北から県南まで参加があり、20代～70代の方々が受講されました。



小原学長から修了証書を交付

第27回(平成18年開催)

本町キャンパス(教養部)で行われた最後の会。終了証を手にした受講生の皆さんは大変笑顔で好評を博したことが伺えます。

●平成18年度公開講座が行われる

27回目となる平成18年度公開講座(健康講座・教養講座)が、本学教養部において行われました。健康講座は市民の皆さんの生活が明るく健康で豊かになることを願って開設するもので、8月21日(月)から8月25日(金)までの5日間、計35名が受講しました。今回は「地域介入による自殺予防と自殺金因者へのケア」「歯の働き、作り方から将来の歯科治療について」「脳のつくり：ミクロの世界・マクロの世界」「加齢によって起こる脳の病気」「口にできる癌のPET検査」の5講座が行われました。

また、教養講座は生涯教育の一環として、1つの講座を継続的に学習し、内容の深い理解を目指すことに特徴があり、8月28日(月)から10月23日(月)にかけて毎週開催され、延べ49名が受講しました。今回は「世界をくまなく読む」ための技法-読解を通じて学ぶ、コトバ・法・科学-」「楽しい南語(盛岡)弁」「宮澤賢治を英語で読む」「健康運動とニュースポーツ」「臓器の栄養学-特に脂質代謝を中心に、化学の基礎から学ぶ-」の5講座が開催され、好評を博しました。



修了証を手にした受講生の皆さん(講座：健康運動とニュースポーツ)

第32回(平成23年開催)

会場が大堀記念講堂に移りました。東日本大震災発災以降行われた最初の講座であり、「3.11 大災害を契機に、いわての理想の未来像を」と題した当時の学長・故 小川彰学長の特別講演に始まり、医・歯・薬学部の健康に関する講座が開設されました。

第32回岩手医科大学市民公開講座が行われました



今年で32回目を迎える市民公開講座が、8月18日(木)から2日間にわたって、矢巾キャンパス大堀記念講堂にて行なわれ、大勢の市民の皆さんが参加しました。この市民公開講座は、大学開放活動の一環として行われているもので、今年度の市民公開講座では、小川学長による「3.11 大災害を契機に、いわての理想の未来像を」と題した特別講演に始まり、医・歯・薬学部の教授により健康に関する講座が開設されました。

参加者は熱心に受講され、貴重な学習の機会となったようです。

第1回(昭和54年開催)

記念すべき第1回は誰でも参加できる「一般教養講座」と三・四歳児とお母さんのための「健康教室」と2つのコースが設けられ、定員40名で開催されました。大変好評で、来年以降も実施してほしいという声が多かったようです。

医科大学月報

第192号

岩手医大公開講座

—成果を上げ終了—

去る八月二十日から二十五日まで、教養部で開かれた昭和五十四年度の本学公開講座は、多くの成果を上げて無事終了した。講座はA・B二つのコースに分けられ(既報一九一号)、受講者はAコース四十四名、Bコース十四名(うち幼児十三名)で、修了者四十八名に修了証書を交付した。受講者のアンケートでは是非、来年も実施してほしいという希望が圧倒的に多かった。なお、公開講座の講義内容を順次本紙に掲載の予定です。

第12回(平成3年開催)

平成3年から講演集を作成し販売されるようになりました。当時は700円(現在は600円)で販売され、講演者・講演内容がまとめられ、現在まで続いています。

公開講座 講演集を出版

本学が毎年行なっている公開講座のうち、平成二年度の第11回公開講座がこの度講演集として小冊子にまとめられ出版された。B6、一五〇頁。購入希望者は、教養部事務室(内線5013)へ直接申し込んで下さい。頒価 七〇〇円。

第28回(平成19年開催)

矢巾キャンパス竣工に伴い、矢巾キャンパスで実施。現在の東講義・実習棟の東1A講義室において、定員を各講座100名(あわせて200名)で行われました。

●矢巾キャンパスで初めての市民公開講座を開講

28回目となる市民公開講座(健康講座・教養講座)が8月20日(月)から24日(金)までの5日間、矢巾キャンパスで行われ、16歳から85歳までの128名(延べ446名)が参加しました。



健康講座は市民の生活が明るく健康で豊かになることを願って開設するもので、「歯ならびや咬み合わせで大切な」「糖尿病とその治療について」「アレルギー疾患の予防と治療」「8020を達成するために」「肝がんの先進医療-腹腔鏡下肝切除から肝移植まで-」の5講座が行われました。教養講座は生涯教育の一環として本学の講義の一部を公開するもので、「体験・ABO式血液型検査」「ヘンリー・ソローの世界」「ドイツのユーモア」「言葉と心-歌謡の深さ、面白さ-」「自然が生み出すタスリ」の5講座が行われ、参加者は熱心に受講していました。

受講者の声

来春矢巾キャンパスへの移転を控え、今回が最後になるかと思いと一抹の寂しさを感じております。反面、同窓の皆さんと楽しく過ごした一時と、講座で習得した知識・技能を余生の宝としながら健康保持に活用して参ります。

第27回(平成18年) 70代女性

「脳卒中の予防と治療」というテーマで小笠原邦昭教授のスライド使用、専門的な分野にまで入り込んだ種々の症状の説明、とてもわかり易く興味深く拝聴させていただきました。出席して良かったと存じます。今後の参考にさせていただきます。

第30回(平成21年) 60代男性

地域に開いた講座を毎年企画して下さり、ご繁忙の中を本当にありがたく、感謝しております。このような企画がなければ、今回のような貴重なありがたい経験をする事もなく、感動も味わえなかったと思います。毎年ご丁寧なご案内をいただき、認知症予防にもと思い頑張って参加させていただいています。感謝のみです。

第39回(平成30年) 50代女性

第20回から講座受けています。1年毎に今年に行けるだろうかと思いつつ1年1年クリア致しました。だいぶ前のことでも頭に入っているものもありますが、それらのことは実行するように役立てています。

第40回(令和元年) 70代男性

市民公開講座の実施は本当に有難い！これからも実施いただけることを心からお願いします。

第42回(令和6年) 50代男性

担当教員から

市民公開講座を担当している教養教育センターの教員にお話を伺いました。



教養教育センター
三枝 聖 准教授
(生物学科)

■ テーマ設定

公開講座では毎年、受講者アンケートを実施しています。このアンケート結果をもとに、教養教育センター・地域貢献推進専門委員会が中心となり、次年度のテーマを考えています。受講者の皆様の興味や関心が高い内容は、ご自身あるいは身近な方が患っている病気についてとりあげてほしいという要望が多くなる傾向にあります。コロナ禍以降、医療人を志す若い世代の受講者もみられるようになってきており、そうした方々の意見・要望も貴重であると考えています。受講者の皆様の「聴きたい・知りたい」という希望を総合的に考慮しつつ、4学部それぞれの専門性の立場・観点から、話題を提供いただけるようなテーマを設定するよう心がけています。

■ これまでの歩みとこれから

昭和54(1979)年に第一回の市民公開講座が開催されてから46年、今年で43回ということはコロナ禍下の数年を除いては毎年欠かさず実施されて来たことを意味します。46年前も大学の社会・地域貢献は望まれていたと思いますが、市民への大学開放が本格的に進められたのは1980年代です。本学の市民公開講座はいち早く開催され、永年に渡って継続されて来たこととなります。その間に実施方法が色々と変化しており、そうしたマンネリ化を避けるための工夫が、継続の秘訣の1つと思われます。今後も参加者の皆様の声を良く聞き、大学と社会・地域を繋げる車輪の1つとしての役割を果たして行って欲しいものです。



教養教育センター
松政 正俊 センター長
(生物学科教授)

第1回全学研究交流会が行われました

7月24日（木）、矢巾キャンパスにおいて、全学研究推進委員会が主催する全学研究交流会が行われました。このイベントは、学内研究の活性化による外部資金の獲得力強化や、学内共同研究の機会を設けることを目的として今年度より開催しています。

記念すべき第1回目には、祖父江理事長、小笠原学長を始めとした62名の教職員等が参加し、医学部・医歯薬総合研究所所属の先生方の研究発表について聴講しました。

発表終了後、有志の先生方による研究発表ポスターおよび軽食を用意した自由交流の場には、30名程の教職員等が参加し、自身の研究紹介や今後の学内共同研究について意見を交わす有意義な場となりました。



研究発表終了後の自由交流の様子

ウェルカム 2025 が行われました

8月2日（土）、歯科医療センターにおいて、歯科医療センターの様々な業務や活動内容を紹介し、体験を通じて歯科医療に興味・関心をもってもらうことを目的に「ウェルカム 2025」が行われました。小学生から中学生までの生徒さんとその保護者の方々が参加し、型取り体験、歯科デジタル機器の操作体験、顕微鏡での細菌チェックの他、虫歯菌の動画解説も行われました。

参加者からは「体験できないことをたくさん体験できておもしろかった」「今日のイベントを通して、デジタルで模型を作れるということを知った」等の感想が述べられました。



型取り体験

オープンキャンパス 2025 が開催されました

7月26日（土）、27日（日）の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス 2025 が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など1,018名が参加しました。

当日は入学を希望する学部に分かれての学部紹介やミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、教員との進学相談会等、たくさんの企画が用意され好評を博しました。

参加者からは「イベントが多く満足度がとても高かった」「初めてキャンパスの中に入りとてもワクワクした。受験勉強をする上でいい刺激になった」との感想が寄せられ将来の進路を決める為の有意義な機会となったようでした。



多くの人で賑わうキャンパスモール



内視鏡手術などの外科手技体験



在学生とのフリートーク

表彰の栄誉

小児科学講座の和田 泰格 講師が 岩手県警察本部長から感謝状が贈呈されました

令和7年7月1日付で岩手県警察本部長表彰を受賞しました。この表彰は、永年にわたり警察業務に貢献し、社会正義の実現や地域の安全に寄与した個人または団体に贈られるものです。平成25年4月から岩手県警の嘱託医として、児童の被害に関する資料の鑑定業務に従事し、推定年齢や性別の判定など捜査協力を続けてきました。令和6年までに合計25件の鑑定を担当し、違法画像と思われる被写体が児童であるかを特定することで、事件の検挙だけではなくインターネット上での不当な拡散防止にも大きく貢献しました。これらの活動は、児童の権利保護や事件解決の促進に役立ち、公共の安全と福祉の向上にも寄与するものとして高く評価されております。永年の尽力と社会的貢献への感謝と敬意を表すものとして表彰していただきました。

(文責：小児科学講座 講師 和田 泰格)



和田講師、赤坂教授

放射線腫瘍学科の家子 義朗 助教が 日本医学放射線学会北日本地方会において優秀演題賞を受賞しました



第152回日本医学放射線学会北日本地方会（2025年7月）において、優秀演題賞を受賞しました（演題名：VMAT-Lattice SFRTを用いた新たな緩和照射の試み）。

本演題では、近年注目を集めている空間的分割照射（SFRT：Spatially Fractionated Radiation Therapy）という新たな放射線治療法を用いた、当院における前向き研究について報告いたしました。SFRTは、粗大な悪性腫瘍に対し、空間的に選択された安全な領域に高線量を照射することで、従来と同等の安全性を保ちながら、腫瘍縮小などの治療効果の向上が期待される治療法です。このたびの受賞を大変嬉しく思いますし、今後の研究・臨床のさらなる発展に向けて励みにしてまいります。

本発表をするにあたり、前向き研究の研究計画を立案いただきました当科の菊池光洋講師、ご助言・ご協力をいただきました医局員・放射線治療スタッフの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

(文責：放射線腫瘍学科 助教 家子 義朗)

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の川又 慎介 助教が 日本顎関節学会総会・学術大会において口演発表優秀賞を受賞しました

この度、令和7年7月12日～13日に開催された第38回日本顎関節学会総会・学術大会にて発表した演題「進行性下顎頭吸収に対する顎間牽引療法の保存的治療としての可能性」が、「口演発表優秀賞」を受賞いたしました。

進行性下顎頭吸収は若年女性に多く、従来は外科的介入が主とされる難治性疾患です。本演題では、顎間牽引療法を応用した保存的治療により病態進行を抑制し得た症例を通じ、新たな治療選択肢としての可能性を報告しました。臨床的な意義が高く評価され、活発な議論が交わされました。

本報告は、川井准教授のご指導のもと取り組んだものであり、日頃からご支援を賜っている山田教授をはじめ、医局の諸先生方に深く感謝申し上げます。今後も臨床に根ざした診療と研究を追究してまいります。

(文責：口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 助教 川又 慎介)



川又助教、川井准教授

表彰の栄誉

医療薬科学講座衛生化学分野の米澤 穂波 助教が 日本がん分子標的治療学会学術集会においてポスター賞を受賞しました

この度、第29回日本がん分子標的治療学会学術集会（7月2日～7月4日、札幌）において、「TELO 2 標的療法は悪性ラブドイド腫瘍細胞の増殖を阻害する」と題した研究発表を行い、ポスター賞を受賞いたしました。

主に乳幼児に発生する悪性ラブドイド腫瘍は、非常に予後の悪い希少がんであり、有効な治療法は未だ確立されていません。この腫瘍は、遺伝子発現の制御に関わるタンパク質複合体を構成するSMARCB1 遺伝子の欠損が特徴とされています。情報薬科学分野の西谷直之教授との共同研究で、抗寄生虫薬イベルメクチンがTelomere length regulation protein TEL 2 homolog (TELO 2) への結合を介して、悪性ラブドイド腫瘍細胞の増殖を阻害することを明らかにしました。さらに、この増殖阻害活性は、TELO 2とSMARCB1の同時欠損に基づく作用である可能性が示されました。現在は、増殖阻害活性の増強および副作用の軽減を目指して、イベルメクチン誘導体の開発と活性評価を行っています。本研究成果は、発達過程にある小児の正常組織に侵襲性の低い悪性ラブドイド腫瘍治療薬の開発につながると期待しています。

最後に、ご指導賜りました西谷先生をはじめ、学会参加に際し寛大なご理解をいただきました杉山晶規教授、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

（文責：医療薬科学講座衛生化学分野 助教 米澤 穂波）



日本消化器病学会東北支部例会及び日本消化器内視鏡学会東北支部例会において 内科学講座消化器内科分野の齊藤 志 専門研修医と山野目 駿人 専門研修医が優秀演題賞、 渡邊 莉子 初期研修医が優秀演題賞、阿部 威志 専門研修医が奨励賞を受賞しました



（左から）齊藤専門研修医、渡邊初期研修医、山野目専門研修医、阿部専門研修医、松本教授

2025年7月4日、5日に弘前市で第219回日本消化器病学会東北支部例会、第174回日本消化器内視鏡学会東北支部例会が行われました。当科から多くの演題を発表し、内視鏡学会プレナリーセッションで齊藤志専門研修医が「食道病変を呈した後天性表皮水疱症の一例」、山野目駿人専門研修医が「腸閉塞を契機に診断された空腸異所性腺癌化の一例」を発表し優秀演題賞を、目指せ！消化器病専門医 研修医からの報告セッションで渡邊莉子初期研修医が「Atez + Bev併用療法中の肝細胞癌に合併した進行性多巣性白質脳症の一例」を発表し優秀演題賞を受賞しました。また阿部威志専門研修医が論文文化した「Non-exposed endoscopic wall-inversion surgery for an early gastric cancer arising from

heterotopic submucosal gastric glands: A case report」が日本消化器内視鏡学会東北支部学術奨励賞を受賞しました。各先生方、発表準備や論文執筆で御苦労したと思われますが、当科から受賞ラッシュとなり医局が大いに沸きました。松本主之教授をはじめとします御指導をいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

（文責：内科学講座消化器内科分野特任講師 永塚 真）

1. ガバナンス・コードの改定について

私立大学に対するガバナンス強化を求める社会的要請が高まり、4月1日付で改正私立学校法が施行されたこと等に伴い、ガバナンス・コードを改定し、引き続き各部門等において実施状況を点検の上、公表することを承認した。

2. 役職者の選任について

研究開発・共創センター副センター長

西谷 直之（新任）

（任期 2025年8月1日から3年間）

3. 職員就業規則の一部改正について

女性特有の健康課題に配慮した取り組みとして、生理休暇の名称を健康管理休暇に変更するとともに、育児・介護休業法の改正に伴い、10月1日から柔軟な働き方を実現するため、満3歳以上小学校就学前の子を養育する職員を対象に、育児と就労の両立を図るための「養育両立支援休暇（4月1日から3月31日までの1年間に10日間）」を無給にて新設することとし、職員就業規則の一部を改正することを承認した。

（施行年月日 2025年10月1日）

4. 組織規程及び教育職員の定員に関する規程の一部改正について

組織規程について、産学並びに地域連携及び研究開発の推進の強化を主軸とした医歯薬総合研究所の研究体制の構築にあたり、当該研究所長及び教員等の選考方法を変更するとともに、当該研究所長を補佐する副所長を新設すること、教育職員の定員に関する規程について、効率的な組織運営と専門領域の明確化を目的として、統合基礎講座医学教育学講座に教育支援システム開発分野を新設し、教員を配置することとし、それぞれ一部改正することを承認した。

（施行年月日 2025年8月1日）

5. 附属病院外来等改修工事に係る業者選定について

内丸メディカルセンターの附属病院統合に伴い、1階から4階は外来診察室等への改修、5階及び10階は事務室、医局等を増設する他、店舗棟（トクタヴェール）2階に医局を増設するため、8月1日から翌年6月30日までを工期予定とし、清水建設株式会社に発注することを承認した。

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第29回目のご芳名紹介です。（令和7年6月1日～令和7年7月31日）

■ 個人（2件）

<ご芳名のみ>

佐々木 真（父母）

伊藤 智範（教職員）

（順不同、敬称略）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
主 陵 会	522	242,608,220
在 学 生 ご 父 母	399	95,840,000
役員・名誉教授	54	155,380,000
教 職 員	48	7,490,000
一 般	29	488,673,572
法 人・団 体	325	359,705,481
合 計	1,377	1,349,697,273

（令和2年9月1日～令和7年7月31日現在）

お知らせ 医大祭2025の開催について



今年は医大祭 2025 を開催します。11月2日（日）は歌唱王、11月3日（月）は、お笑いライブを開催する予定です。他にも、文化部による団体展示、学友会団体による飲食店出店、研究室による公開実験、前回好評であった一般参加型のゲーム大会「e-sports 大会」など、様々な企画を予定しております。皆様のご来場をお待ちしております。

■ スローガン「桜梅桃李」

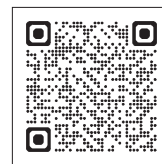
桜・梅・桃・李（スモモ）の花のように、それぞれが持つ美しさや素晴らしさを大切にし、自分らしさや個性のあふれる医大祭にしたいという願いが込められています。岩手医科大学の学生一人ひとりが輝くことで、岩手医科大学が輝いてほしい。そして、感染症の流行という歴史の転換点から少しずつ歩みだした街や社会全体の輝くきっかけになるという決意を花になぞらえました。



X



Instagram



ホームページ

■ 出店・出展情報

- ・各研究室による学術展示及び公開実験
- ・各部活による食品の販売
- ・e-sports 大会
- ・華道部による作品展術
- ・歌唱王
- ・スタンプラリー 他

岩手医科大学における法医解剖数が 5000 体に到達

岩手医科大学における法医解剖数がこの度 5000 体に達し、熊谷秀一岩手県警察刑事部長、野原勝岩手県保健福祉部長、下沖医学部長を来賓としてお招きし 6 月 21 日（土）に岩手医科大学法医解剖 5000 体記念の会をホテルメトロポリタン盛岡本館で開催しました。

本学法医学分野は岩手医学専門学校開校とほぼ同時期に開設され、本学における法医解剖 1 例目は 1931 年（昭和 6 年）9 月 7 日の夕方に内丸地区で、黒川廣重先生（当分野初代教授）の執刀で中年女性に対して行われています。また今の法医学分野の担当地域は岩手県および岩手県沖太平洋ですが、戦前は青森県、秋田県、岩手県を本学が担当しており多忙な状況であったことが推測されます。以降 92 年間、22 名の医師によって引き継がれ 2023 年（令和 5 年）5 月に 5000 体に達しました。岩手県における法医解剖機関は本学法医学分野のみで岩手県の全例が矢巾に搬送されています。今後も迅速かつ正確な診断で地域に貢献できるよう尽力して参ります。



ホテルメトロポリタン盛岡本館で行われた記念の会

（文責：法科学講座法医学分野 教授 高宮 正隆）

編集委員コーナー No.41

わしの尾のお酒

齋野 朝幸

presents

日本酒の酒母の造り方には生酛（きもと）、山廃（やまはい）、速醸（そくじょう）の三つの手法があり、それぞれ特徴的な製法で個性豊かな味わいを生み出します。生酛は江戸時代からの伝統的な製法で、米をすり潰す「山卸（やまおろし）」の工程を経て、自然の乳酸菌で長期間発酵を行うことで、深い旨味と豊かな香りが生まれます。山廃は明治時代に確立され、「山卸廃止酛（やまおろしはいしもと）」の略称です。山卸の工程を省略し、自然の乳酸菌を活かす効率的な方法で、キレとしっかりしたコクを両立させます。速醸は明治後期に開発された方法で、人工的に乳酸を加えて雑菌の繁殖を防ぎ、短時間で安定した発酵を実現。軽快でフレッシュな風味が特徴です。

八幡平市西根の老舗「わしの尾酒造」が手がける「金印」は、速醸に山廃を約 3 分の 1 ブレンドし、双方の長所を見事に調和させた逸品です。かつて二級酒として販売されていた「金印」は、現在同社売上の約 44% を占め、「上撰」（約 25%）と合わせた約 70% が主力商品です。二級酒ですがこのように丁寧に作られています。日本全国に蔵元は数多く存在する中、かつての二級酒が主力となっている蔵は少ないといえるでしょう。冷やでも燗でもその魅力が引き立ち、岩手の清冽な水と良質な酒米、そして職人の情熱がひとつに結実した一杯として、多くのファンから高く評価されています。歴史ある蔵元が守り続ける伝統と、常に挑戦を忘れない創意が凝縮された「金印」の魅力に触れてみてください。



八幡平市西根にある老舗「わしの尾酒造」

Dブロック外来

Dブロック外来は看護師7名、医師事務作業補助者（MA：Medical Assistant）8名、受付事務8名で構成され、呼吸器内科、呼吸器外科、循環器内科、心臓血管外科、消化器内科、腎・高血圧内科、泌尿器科、整形外科、口腔外科の9つの診療科が診察を行っています。1日あたり200人前後の患者さんが受診され、19室ある診察室では日々の診療に加え、救急受診や緊急入院への対応も行っています。当院は、がん診療連携拠点病院としての役割を担っており、専門的ながん医療の提供とアピアランスケアの相談窓口やがん相談支援への橋渡しなど、身体的・精神的両面からの支援を行っています。がん治療による外見の変化に伴う気持ちのつらさ、身体のつらさなど、患者さんの思いに寄り添い、その人が自分らしく社会とつながり、生活できるよう支えたいという思いで関わらせていただいております。検査、入院

の説明時、化学療法患者さんの体調確認の中で、患者さんの言葉の中に支援の手がかりを見いだせるよう、声に耳を傾け、気がかりなことを一緒に明らかにすることを大切にしています。多職種、他部門と協働し、質の高い医療の提供と患者さんに寄り添った対応を心がけ、スタッフ一同取り組んでいます。

（主任看護師 目時 貴子）



東6階A病棟

東6階A病棟は脳外科・脳神経内科の病棟で、主に脳出血・脳腫瘍などによる外科的手術から、化学療法・放射線療法を施行する患者さん、パーキンソン病や筋委縮性側索硬化症などの神経難病の患者さんが入院しており、急性期治療から緩和ケアまで幅広い対応を行っています。

意識障害や高次脳機能障害、運動失調、嚥下障害、言語障害などの機能障害により、日常生活に支障を抱える患者さんが多くいます。機能の維持・向上、社会復帰や在宅療養を目指しリハビリスタッフと週一回のカンファレンスの実施、さらにSCUと連携し、脳卒中相談療法士を中心に再発予防のための生活指導なども行っています。また、PDナース（パーキンソン病療法指導士）取得者がおり、意思決定支

援や退院指導にも力を入れ患者さんが安心して治療できるよう取り組んでいます。その人らしく生活できるように、多職種と連携し質の高い看護を提供していきたいと思っています。

（主任看護師 坂本 貴美江）



岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	藤村 尚子
影山 雄太	高橋 慶
松政 正俊	阿部 俊
齋野 朝幸	杉下 佳子
藤本 康之	石森 由樹
白石 博久	高橋 淳美
佐藤 泰生	伊藤 祥子
佐藤 仁	稲垣 学人
藤澤 美穂	高橋美季子
細田 留美子	松田 悠史
畠山 正充	

編集後記

本号は、市民公開講座の特集となりました。受講の様子から、地域住民の方々の健康に対する意識の高さがうかがわれます。地域住民の方々から教えていただいたこともありましてご紹介いたします。子育てボランティアのシニア世代の方から「しそジュースは、夏バテ防止にいいよ」と自家製しそジュースをいただきました。きれいな赤色と爽やかな酸味でシャキッとしたのを覚えています。しそジュースには健康や美容によい成分が豊富に含まれています。だからお元気なんですね。これからも地域住民の皆様と共に健康でありたいと思っています。（編集委員 高橋 淳美）

岩手医科大学報 第561号

発行年月日／令和7年9月30日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポット歯学講座 No. 28

口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野 講師 筑田 真未



患者さんの全身管理を行っている 歯科麻酔科医の役割

■ 歯科治療における静脈内鎮静法とは

皆さんは歯科治療に対してどのようなイメージをお持ちですか？

「こわい」、「緊張する」、「痛い」…

など、残念ながらマイナスなイメージを持っている方がほとんどではないでしょうか。静脈内鎮静法とは患者さんに完全な意識喪失ではなく、うとうとほんやりしたような「半覚醒」状態となっただけ、その間に歯科治療を行う麻酔のことを言います。

■ 静脈内鎮静法の適応

歯科治療に対して強い恐怖心がある方や、ミラーやピンセットなどの歯科用器具や歯の型取りなどの歯科材料がお口の中に入ると嘔吐反射が出てしまって意識下で歯科治療を受けることが難しい方、心疾患や脳血管疾患など何らかの全身疾患を有する患者さんや、ご高齢の患者さんの歯科治療中の全身管理に適応しています。削る、詰めるなどの一般的な歯科治療から、抜歯やインプラント手術のような侵襲の大きい手術まで、歯科治療全般が対象です。

■ 実際の静脈内鎮静法の流れ

生体情報モニタ（図1）を装着して心拍数、血圧、呼吸状態を継続的に監視します。静脈路の確保（点滴をとる）を行い、鎮静作用・催眠作用・抗不安作用を有する薬剤を点滴から投与します。これによりうとうと眠ったような状態となります。その間は「TCI シリンジポンプ」（図2）を使用して、患者さんに合わせて投与量をコンピューターで自動制御しています。歯科治療を行っている間、その横で常に全身状態を確認しながら患者さんを見守り、必要に応じて適切な処置や薬の投与を行っています。私たち歯科麻酔科医は、歯科治療における不安感や恐怖心を和らげて、リラックスしながら安全快適に歯科治療を受けていただけるようにサポートしています。

歯科治療を受けることがとにかく苦手で歯医者へ行くことを諦めていた方や注射や抜歯が怖い方でも、静脈内鎮静法下であれば、眠っている間に安全快適に治療を受けることができます。ご興味のある方はお気軽にご相談ください。



図1 生体情報モニタ



図2 TCI (Target Controlled Infusion) 機能付きシリンジポンプ